

産科向け電子カルテ ミトラ、タイで販売へ 英語表記、記録項目見直し

電子カルテのシステムを開発するミトラ（高松市）は、自社の産科向け電子カルテシステム「ハロー・ベイビー・プログラム」の初の海外向けとして、タイ版の開発を進めている。表記を英語に変更するほか、国によって診療で重視するポイントが異なるため、カルテの記録項目も見直す。既に試作システムを現地の医師に貸し出してデータ収集を始めており、2014年度中の販売を目指す。



売り込みや情報収集のため、バンコクの見本市に出展したハロー・ベイビー・プログラム

ハロー・ベイビー・プログラムは、周産期（妊娠22週から生後1週間未満）の妊婦や胎児・乳児の情報をパソコンで管理するシステム。妊婦の血圧や胎児の身長など診察や検査で得たデータを瞬時にグラフ表示できるのが特徴で、妊婦と胎児双方の状態に応じた出産計画を立てることが可能。データを共有化することで遠隔医療にも活用できる。

2003年から販売を開始し、これまでに県内を始め全国の病院や診療所約80カ所が導入。産科用電子カルテのシステムでは国内シ

ェアトップを誇り、さらなる需要拡大を目指し、海外版の開発に着手した。

海外版第1号にタイを選んだのは、人口が多く、通信網が発達しているため。加えて、山間部では専門医が不足しており、遠隔医療のニーズも高いと判断した。既にタイ北部の都市で

医師にシステムのモニターを始めてもらっており、タイで使いやすいシステムの確立を進めている。

今後は14年度中の販売を目指し、タイでの特許や商標の整備、現地でソフトを保守してくれる企業の選定を急ぐ。価格を日本国内より抑えるため、クラウドシステムの活用も検討する。

尾形優子社長は「日本の周産期医療はデータ管理の徹底によって世界最高水準にある。タイで販路が広がれば、中国やベトナムにもシステムを提供したい」と話している。

